

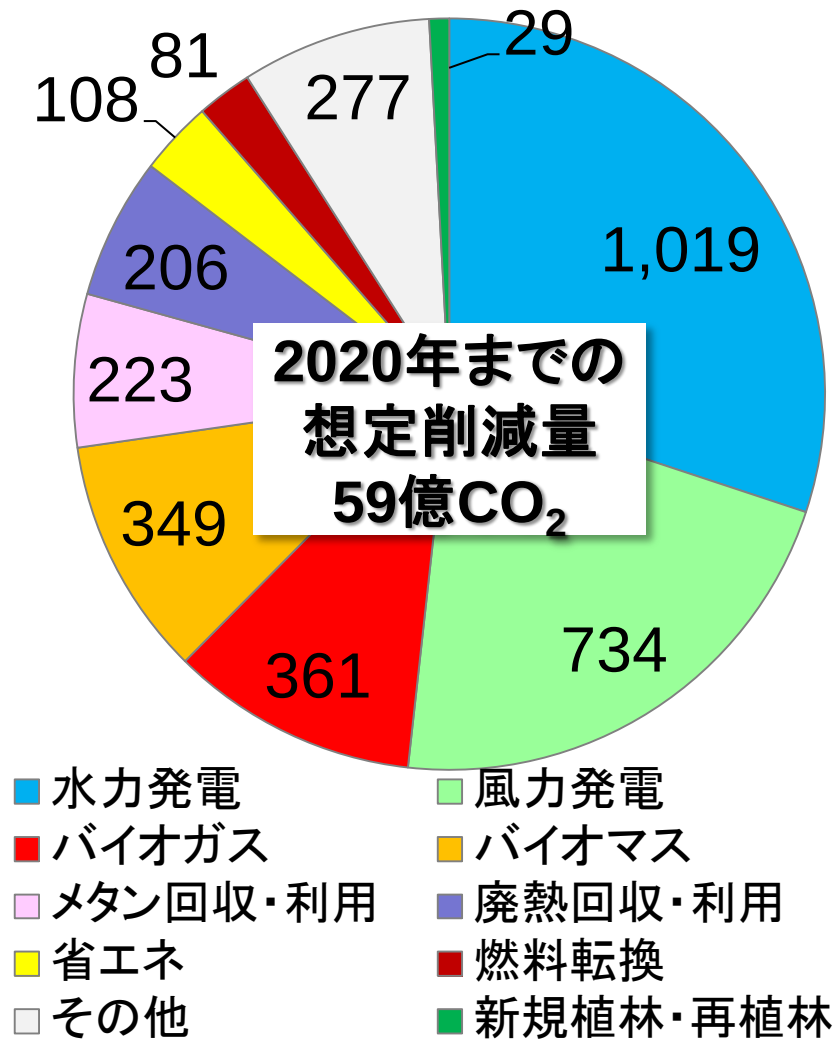
REDD+メカニズム構築に 向けた課題と今後の展望

-市場メカニズムアプローチ導入に向けて-

(財)地球環境戦略研究機関
市場メカニズムグループ
高橋健太郎

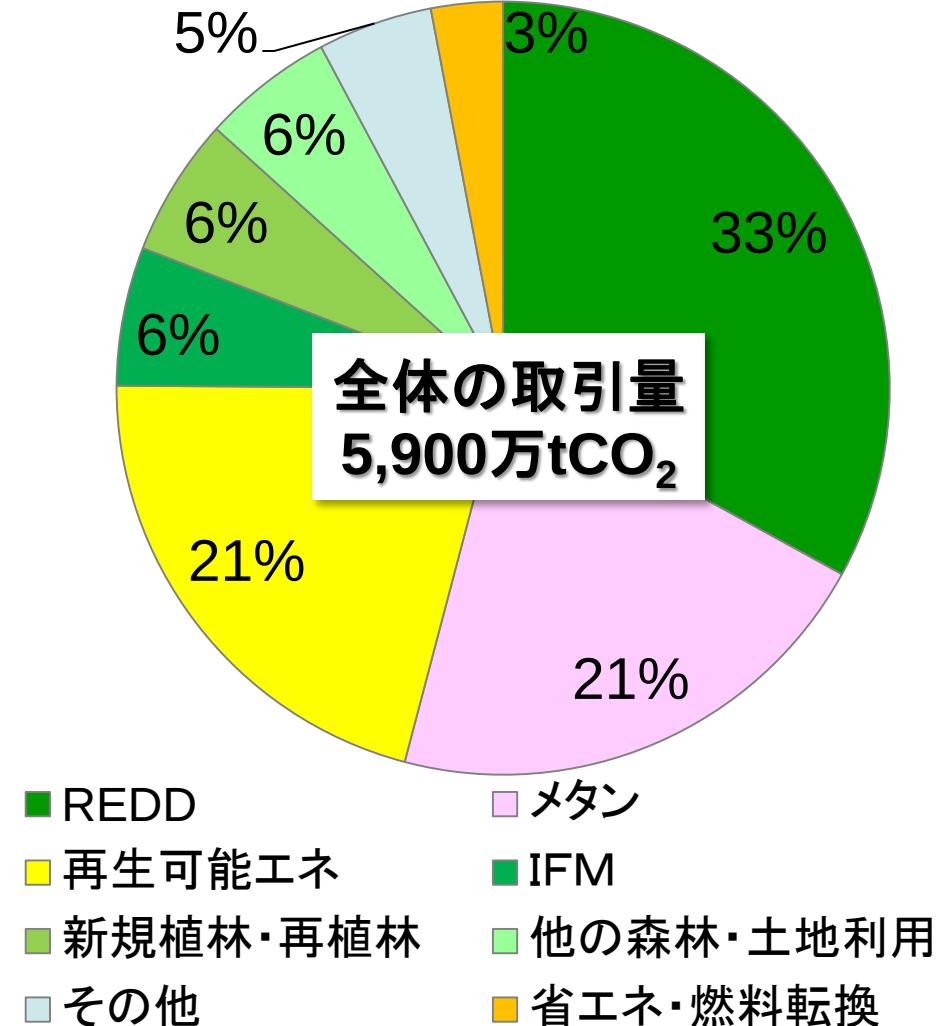
既存のメカニズム

登録済みCDMプロジェクト件数



出典: IGES CDMプロジェクトデータベース
(2011年9月1日現在)

自主的炭素市場の状況(相対取引)



出典: State of the Forest Carbon Markets 2011

既存のメカニズムにおける状況と課題

- 補填義務があるため、t-CER・I-CERが発行されても、炭素市場で取引されない可能性。
- 海外炭素市場においては、t-CER・I-CERが**取引の対象外**（例：EU-ETS市場）。
- A/R CDM方法論の複雑化・登録プロセスにおける長期化（CDMにおける共通の課題：**パブコメ開始から最初のクレジット発行までに約2年半**）。
- 自主的市場ではバッファアプローチにより、非永続性に対応し、リスク分のクレジットを留保（クレジット補填リスクの低減）。
- 森林関連のクレジットは安値での取引傾向。

市場メカニズム・REDD+の議論

【市場メカニズム】

一つかもしくは複数の市場メカニズムをCOP17にて設立を検討することを決定(パラ80)

- ◆自発的参加
- ◆排出量の純削減及び排出回避を確保
- ◆先進国の削減目標の達成を部分的に支援

【REDD+】

結果に基づく活動の完全実施段階における資金オプションを検討することを要請(パラ77)

先週パナマにて、資金オプションとして、公的資金(二国間・多国間)・民間資金(市場メカニズム含む)・GCF(グリーン気候基金)活用の可能性について議論。

各国のサブミッション・発言

AWG-LCAにおける市場メカに関するサブミッション

制度体制

- ・議定書または条約の下で設置
- ・中央集権型システム
- ・分散型システム
- ・UNFCCC下の理事会

MRV

- ・国際的な協議及び分析(ICA)
- ・共通の方法論、ガイダンスの構築
- ・全体の枠組みにおけるMRVとの整合性

既存メカとの関係

- ・京都メカニズムを補完するもの
- ・京都メカニズムと共存する
- ・NAMAとの統合

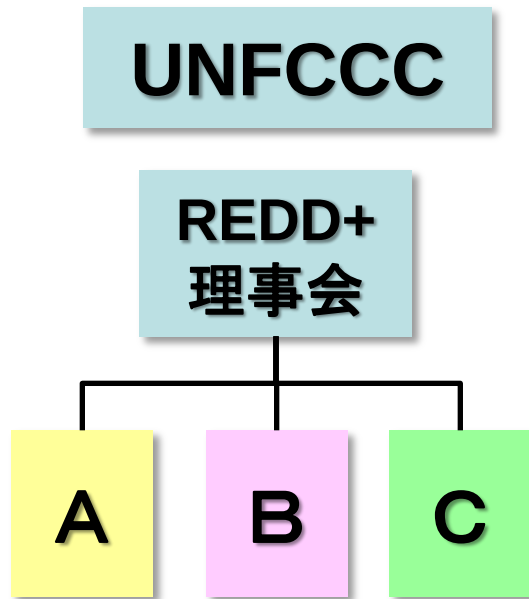
REDD+メカニズムにおける資金オプションに関する発言

国名	公的資金			民間資金		基金 (GCF)
		二国間	多国間		市メカ	
日本・米国	○	○	○	○	○	—
PNG(熱帯林連合)	○	○	○	○	○	○
フィリピン	○	○	○	○	—	○
ボリビア	○	—	—	○	×	—
ノルウェー	○	○	○	○	○	△

出典: 2011年10月1-7日に開催されたAWG-LCA会合における各国の発言を基にIGES高橋が表を作成。 5

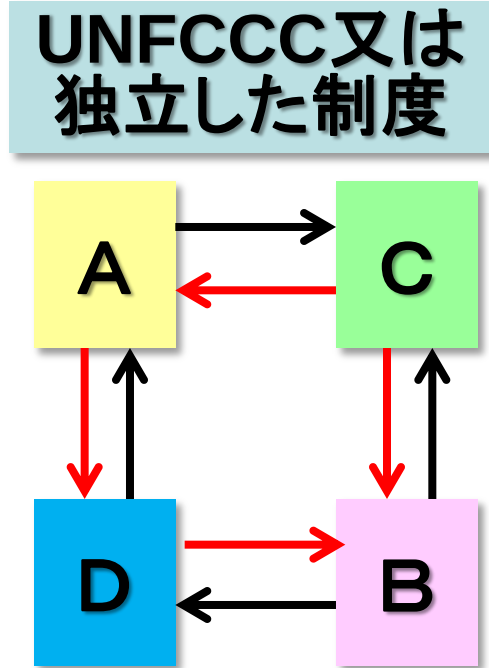
REDD+メカニズムのシナリオ

シナリオ1 UNFCCC管理下 のメカニズム



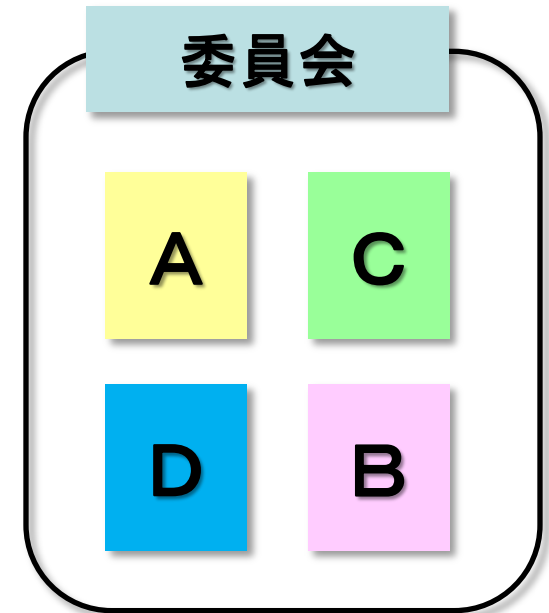
- CDMと類似した中央集権的なシステム
- 但し、プロジェクトレベルではなく、国レベル又は準国レベルで実施

シナリオ2 二国間メカニズム



- 日本政府が提唱するような二国間メカニズム
- 二国間によって、実施手順などが決定し、各国間でルールが異なる

シナリオ3 多国間メカニズム



- 合意がなされた国が参加するメカニズム
- 実施手順などルールは合意した国々で構築される

論点(1): 参照排出レベル(REL)

	参照排出レベルの 設定方法	課題
シナリオ1	国レベル又は 準国レベル	→クレジットを決定する上で非常に重要。国際的な合意に時間を要し、研究成果の蓄積が必要。
シナリオ2	国レベル又は 準国レベル	→二国間メカニズムの下で実施しているプロジェクトから国レベルへのスケールアップ・整合性が必要。
シナリオ3	国レベル又は 準国レベル	→多国間での合意、各国の手法の整合性を取る必要有。

□ RELの評価プロセスが、MRVの全体枠組の中(国際的な協議及び分析:ICA)で取り扱われるのか、それとも個別に評価されるのかによりその精度が異なる。

論点(2):MRVの対象

	排出削減量	排出削減量以外の評価対象		
		生物多様性	SD(持続可能な開発)	資金
CDM	必要	環境影響評価セクションにて記述	ホスト国の承認基準	報告の必要なし
シナリオ1	必要	・地域ごとに異なる生物多様性の評価 ・様々な評価指標	・共通の指標は作成は困難 ・ホスト国がセーフガード対策を実施	・受け取った資金が適切に途上国内で使用されているか(汚職対策)
シナリオ2	必要			
シナリオ3	必要			

- MRVの対象を決定し、評価する主体がどこにあり、どのようなプロセスを経るのか(UNFCCC・二国間・多国間)が論点となる。プロセス次第では、評価内容も異なる。

論点(3):MRVガバナンス

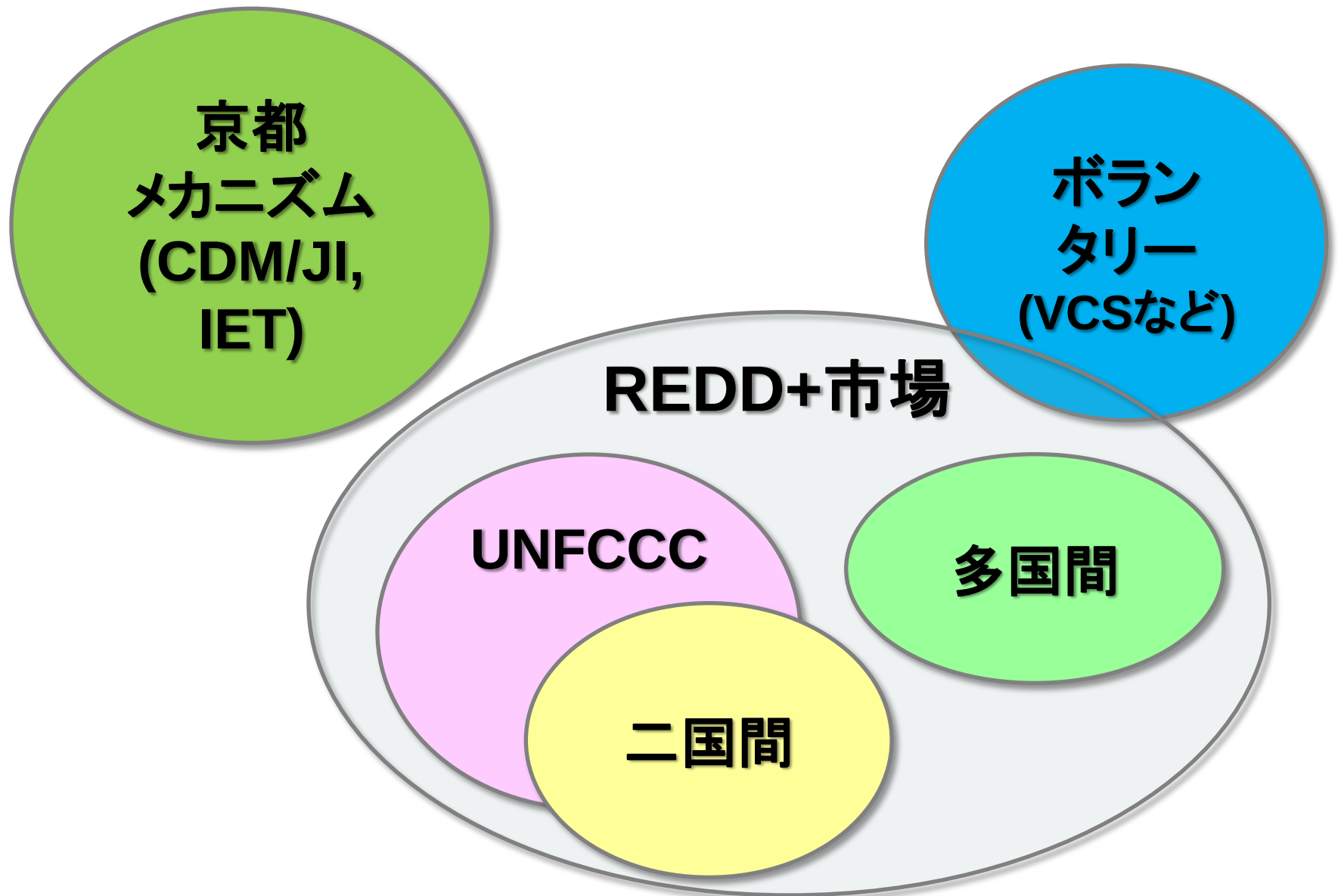
		CDM	GIS*	REDD+		
				シナリオ1	シナリオ2	シナリオ3
M (測定)	主体	事業者	事業者	国又は準国 レベル	事業者	国又は準国 レベル
	様式	モニタリン グ報告書	事業 報告書	隔年報告書 又はNC	モニタリン グ報告書	モニタリン グ報告書
R (報告)	主体	事業者	相手国 政府	国又は準国 レベル	事業者	国又は準国 レベル
	様式	モニタリン グ報告書	事業 報告書	隔年報告書 又はNC	モニタリン グ報告書	モニタリン グ報告書
V (検証)	主体	DOE	監査法人 検証機関	専門家によ る検証	検証機関	専門家又は 検証機関
	様式	検証 報告書	事業 報告書	検証 報告書	検証 報告書	検証 報告書

*GIS(Green Investment scheme): グリーン投資スキームの略。先進国(附属書B国間)において、環境対策などに用途を限定した資金を拠出し、排出枠(AAU)を取引する排出量取引の一形態。

論点(4): REDD+クレジットの使途

	クレジットの使途	課題
シナリオ1	・先進国の次期枠組削減目標達成	→国際的な合意が必要
シナリオ2	・先進国の次期枠組削減目標達成 ・オフセットクレジット ・途上国の自主的市場における活用(タイ・尼・中等)	→国際的な合意が必要 →オフセット市場の拡大 →途上国で市場メカのインフラ整備必須
シナリオ3	・先進国の次期枠組削減目標達成 ・自主的市場におけるクレジット ・途上国の自主的市場における活用(タイ、尼、中等)	→国際的な合意が必要 →自主的市場(VCSなど)とのリンク・整合性 →途上国で市場メカのインフラ整備必須

将来のREDD+メカニズム市場



市場メカニズム導入に向けた課題

- 国際交渉において、ボリビアをはじめとして、市場メカニズム導入に反対する国が存在。
- 想定されるシナリオによって、市場メカニズムが活用されない可能性。
- シナリオごとに、発行クレジットの使途が異なると想定（異なるMRVの形態・手法）。
- 削減目標遵守に利用不可となれば、クレジットが供給過多の可能性。途上国の削減目標達成（NAMA）としての可能性。
- 市場の断片化が生じた場合、各市場のリンクが課題。共通の手順・ガイダンス・方法論を整備する必要。